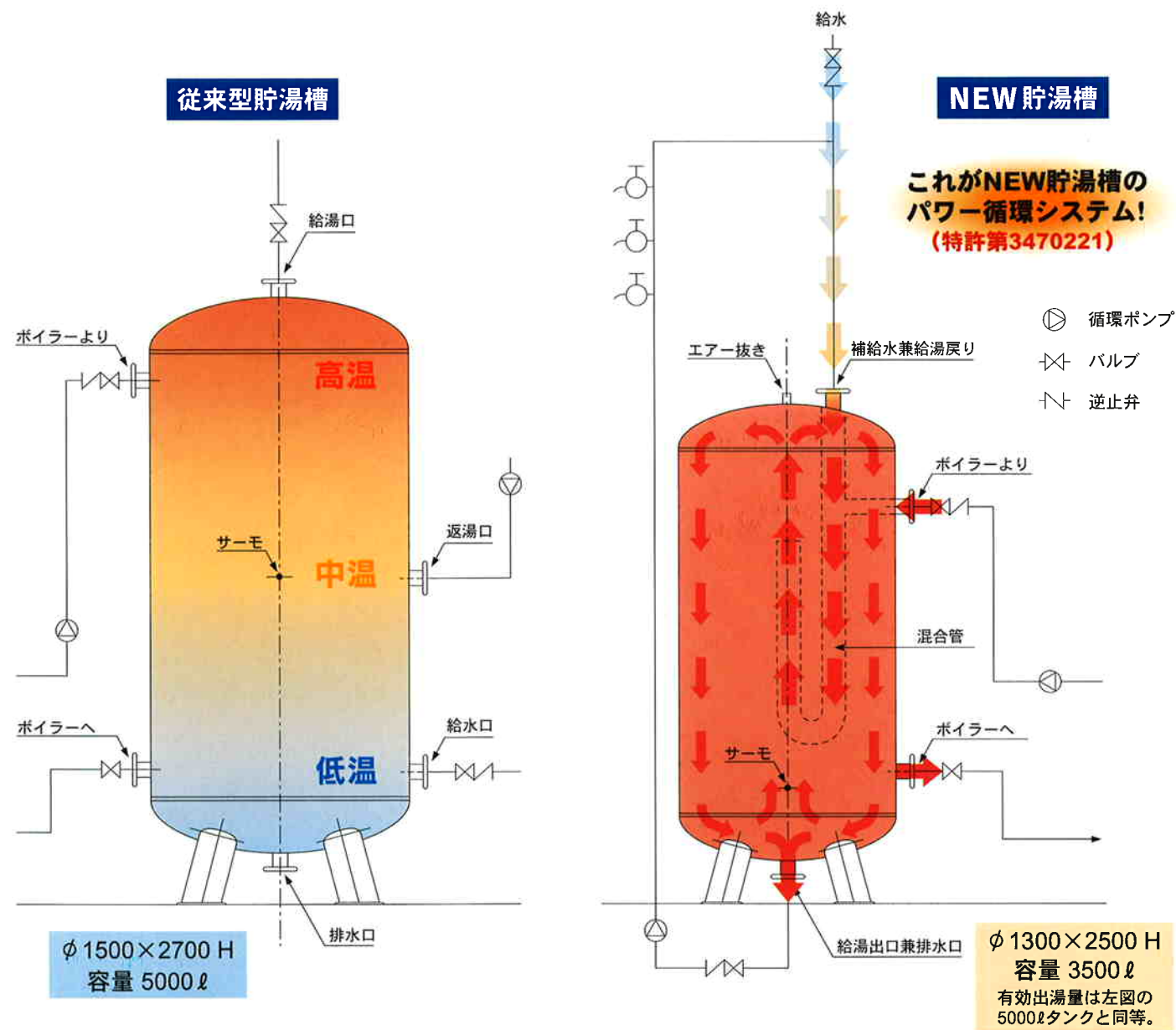
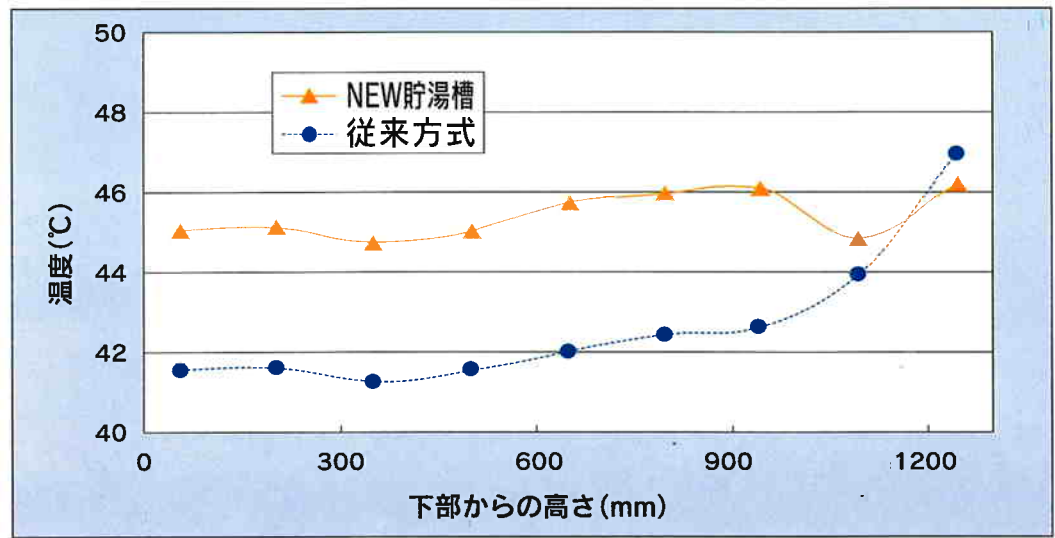


従来型貯湯槽とNEW貯湯槽の比較



従来型貯湯槽とNEW貯湯槽のタンク内温度分布比較 (φ750×全高1440H)



従来型の問題点

- 槽内の湯は混じり合う事なく、常に三層分離(左図参照)現象が起き、温度差・温度ムラを生じる。
- 同時大量使用した時に、温水供給が間に合わず、低温水が出て不快感・不便性を生じる。
- 温度ムラがあるために使い勝手が悪く、水資源及び燃料を無駄に浪費している。
- 上部に高温水を集め供給するため、酸素も一緒に取り込まれ、赤水・腐食劣化の原因となる。
- 使用時に下半分は予備的な部分となり、そのために槽の容積が大きくなり、スペースを取る。
- 槽下部は死に水状態となり、錆び・不純物等が沈殿堆積し、定期的に清掃が必要である。

NEW

パワー循環システムで解消!!

- 冷水を直接槽内に放出せず、混合管で温水にしてから放流するので温度ムラを解消できる。
- 全量を均一な必要温度にして確保できるので同時大量使用しても不快感・不便性はない。
- 常に均一温度を維持できるので使い勝手が良くなり、水資源・燃料の省資源化につながる。
- パワー循環システム作用で、均一温度にして槽下部より供給するため、酸素はほとんど入らず酸化作用減少。
- 全量を必要温度にて確保し、パワー循環システム作用により、槽の容積を縮小できる。(従来型の70%~60%)
- 特許第3470221、

従来型貯湯槽とNEW貯湯槽の大きさ比較 (有効出湯量を同じとして)

	タンク寸法			貯湯量(ℓ)
	胴径(mm)	胴長(mm)	全長(mm) ※BPから上部縁	
従来型	1000	1800	2536	1500
NEW貯湯槽	900	1450	2148	1050
〃	1100	2000	2774	2000
〃	1000	1550	2286	1400
〃	1200	2100	2914	2500
〃	1100	1600	2374	1750
〃	1200	2500	3314	3000
〃	1100	1950	2724	2100
〃	1300	2500	3352	3500
〃	1200	1900	2714	2450
〃	1400	2500	3392	4000
〃	1200	2200	3014	2800
〃	1400	2700	3592	4500
〃	1200	2500	3314	3150
〃	1500	2700	3630	5000
〃	1300	2500	3352	3500
〃	1600	2700	3668	5500
〃	1400	2200	2792	3850
〃	1600	2800	3768	6000
〃	1400	2400	3292	4200